



2016年10月3日(月) - 28日(金)

10時-17時
(全曜19時まで)

慶應義塾大学アート・スペース (土・日・祝日閉館) 入場無料

展覧会ウェブサイト <http://kmj.flet.keio.ac.jp/exhibition/2016/>

THE WORLD OF PALEOGRAPHY IV
RECORDS OF INTERNAL MIGRATION

書き留められた移動

文学部古文書室展Ⅳによせて

文学部古文書室展も、今年で四回目となりました。初めて開催した文学部古文書室展Ⅰでは、「野村兼太郎収集資料の世界」として、農村関係文書主体の展示会を、一昨年のⅡでは、「武」を記録する」として、武家関係文書を中心に展示会を行ってきました。昨年は、公家の二条家文書の中から、「幕末を記録する」と題して、幕末期を象徴する出来事にかかわる史料展示を行いました。同時に、都合 2,300 点ほどになる本室所蔵二条家文書の古文書検索システムへの登録と、撮影済み資料の画像による公開も実現しました。

今回は、「書き留められた移動」というタイトルで、江戸時代の日本における、天皇・公家、武家、庶民といったさまざまな階層の人々による、多様な移動が記録されている古文書、記録、絵図などをご紹介します。種々の地理的・社会的な移動が様々な領域を超えて広がっていった様子を感じていただければと思います。個別具体的な移動を書き留めた資料を通じて、近代における国境確定とそれを越える人の移動の同時進行の歴史と、その一つの帰結として今私たちの目の前に広がる人の移動の諸相とを視野にいれつつ、近世から近代へと移りゆく時代における人々の移動が担った意味について、考えてみたいと思います。

なお、今回の展示会では、美濃国本巣郡神海村などの宗門改帳関係史料を、時系列に沿った庶民の移動の痕跡が書き留められた史料として、展示の一つの柱に据えさせていただきます。本室所蔵の貴重な史料群であると同時に、戦後間もなく、野村研究会神海村共同研究班の皆さんが真剣に取り組んだ史料であり、本室黎明期の一端を物語る現代史料でもあります。野村兼太郎が世に出ることができなかった『宗門改帳の研究』は、その後共同研究班出身の先輩たちの社会各方面における活躍と、本室の前身である「古文書室」を長年管理運営してきた速水融による一連の人口学研究として結実することになりました。

展示会協力

慶應義塾大学三田メディアセンター

安澤 秀一

(国文学研究資料館・史料館名誉教授)

山崎 忠

(元野村研究会神海村共同研究班・月曜会)

高山 正也

(元国立公文書館長・慶應義塾大学名誉教授)

筒井 弥生(一橋大学大学院非常勤講師)

赤木 妙子(目白大学教授)

倉持 隆

(慶應義塾大学三田メディアセンター貴重書室)

文学部古文書室

柳田 利夫(室長)・倉田 敬子(副室長)

久光 翔・山本 晶子・伊藤 絹子

足助 美月(スタッフ)

須藤 遼・松村 詠美(大学院生)

重田 麻紀・木野 涼介

石坂 桜(前スタッフ)

文学部古文書室について

慶應義塾大学文学部古文書室は、経済学部教授野村兼太郎が戦前・戦後を通じて収集した文書を中心に、その後、慶應義塾出身者などから寄贈・寄託を受けた資料をも併せ架蔵しており、それらの歴史資料を保管・管理し、未来へと受け継ぐとともに、広く学術利用に供することを目的として、2009年、文学部の下に設置された組織です。

野村兼太郎は、鋭意収集した資料を自らの研究に駆使するだけでなく、学部学生による共同研究班や大学院の教育等に活用し、後進の育成の為に積極的に利用してきました。その役後、同教授の薫陶を受けた文学部教授中井信彦、経済学部教授速水融らの手によって収集資料がまとめられ、1969年に本室の前身となる「古文書室」が創設されました。

「古文書室」はその後も、大学院教育等に利用される一方で、経済学部を中心とする関係者の手に依り、所蔵資料の整理・目録作成作業と、資料を用いた学術的な研究が重ねられ、『三田学会雑誌』などに多数の成果が発表されました。

1989年からは、文学部教授田代和生を中心に、学生・院生の教育を兼ねた資料の整理作業が組織的に進められ、「所蔵古文書検索システム」の開発・公開や所蔵目録の刊行がなされ、資料の一般公開も開始されました。

2009年4月、「古文書室」は慶應義塾の組織として正式に文学部の下に位置づけられることとなり、慶應義塾大学文学部古文書室

と改称されました。これを機会に、慶應義塾大学メディアセンターの協力を得て、同センターに所蔵されていた資料の移管を受け、野村兼太郎収集資料全体が本室で一括管理されることになりました。

文学部古文書室には、現在までのところ常勤の教職員は配置されていませんが、可能な範囲で、所蔵資料の管理・保管体制の充実に、一般公開について積極的に取り組み、慶應義塾、文学部、速水融・田代和生両名誉教授からの物心両面にわたる援助と助言を受け、2011年には史料保存庫・閲覧室の改修を実施しました。また、遅々とした歩みではありますが、所蔵資料検索システムの拡充、資料のデジタル化とホームページ上での公開などを並行して進めています。

前回、古文書室展Ⅲの開催に合わせ、整理作業とデジタル化が完了した二条家文書の大部分について、検索システムへの正式登録と、検索システムを通じての画像表示・画像全体の一括ダウンロードが可能となりました。

既にホームページ上で一般公開しているもの以外についても、画像データを所有しているものについては、逐次、画像表示、一括ダウンロードが可能となるよう作業を進めるとともに、インターネット経由での資料閲覧対応も開始しております。まだまだごく一部の資料に限られますが、来室することなく資料の閲覧が閲覧希望者の自宅・職場から可能になっていきます。併せて、ご活用いただければ幸いです。